（別紙4）　　令和　1　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1292200175		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター藤心		
所在地	千葉県柏市藤心1-26-28		
自己評価作成日	令和2年3月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	令和2年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

■定期的なミーティングや介護スキル研修、ケアカンファレンスを開催し、常にケアサービスの質の向上を心がけるとともに、ユニット毎・職員毎の連携や統一された内容のケアが提供されるよう努めています。
■ホーム内は明るく、お客様の笑顔が溢れています。定期的な行事や体操等のアクティビティに力を入れており、身体機能の維持向上を念頭に置いて、積極的に取り組んでいます。
■立地は、東武アーバンパークライン逆井駅から徒歩15分の閑静な住宅街の中にあり、穏やかな空間の中でお過ごしいただけます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「ニチイケアセンター藤心」は、閑静な住宅街の中にあり、小規模多機能型施設と併設のグループホームである。日頃から併設の小規模多機能施設やユニット間での交流を盛んに行う等、入居者の生活活性化を図ると共に、馴染みの関係継続や新たな出会いの場となっている。施設内の共有スペースには、入居者が自由にくつろげる環境が整っており、体操・折り紙・塗り絵・ゲーム・職員によるギター演奏や歌等、日常的に多種多様の室内レクリエーションが行われており、入居者から好評を得ている。地域とは、声掛けや地域行事への参加等を通じて、地域に根差した運営に取り組んでいる。また、傾聴ボランティアやハーモニカ・三味線・生け花・アロマハンドトリートメント等の様々なボランティアを受け入れており、入居者の生活の楽しみや地域との繋がりを支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の社是「誠意・誇り・情熱」を基に経営理念を全職員が周知しています。 また、ホームの理念として「高齢者の尊厳と自立を守り、地域に根差した拠点として笑顔あふれるサービスを提供します」を念頭に置き、日々のケアに取り組んでいます。	法人の社是と施設理念を掲げており、施設内の掲示やホームページの掲載を通じて、外部・内部への周知を図っている。また、新人研修や会議等で職員全員への周知・意識共有に努め、理念に基づいた支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様との散歩や建物周りの清掃時等に、近隣の方との挨拶を心掛けています。 また、近隣の介護事業者、地域包括支援担当者と小学校が開催する催しにも積極的に参加しています。	日頃から、近隣住民と挨拶や声掛けを交わしており、良好な関係を築いている。地域行事に参加すると共に、クリスマス会等の施設行事に近隣住民を招待している。また、傾聴ボランティアやハーモニカ・三味線・生け花・アロマハンドトリートメント等のボランティアも受け入れており、入居者の生活の楽しみや地域との繋がりを支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校で行われる季節の行事には、認知症クイズや支援方法等のアドバイスを行い、ケアの向上に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、当該定期開催されており、事業所の現状やサービス内容の報告相談、また今後における改善点の話し合いが行われ、建設的な意見を頂いています。	地域包括支援センター職員・民生委員・家族・施設職員を構成員として、年6回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行っていると共に、身体拘束排除に関する話し合いも行っており、施設の運営やサービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行事への参加のほか、地域包括支援センター担当者との連携を行っています。	日頃から、市とは、業務における相談や報告、施設の空き状況の伝達等を通じて連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会を通じて、市と意見や情報交換をしており、相互に協力関係を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、虐待等に関する情報を共有しています。また、管理者は身体拘束廃止研修基礎課程を修了しており、より正確な情報の共有に努めています。玄関の施錠に関しては、ご本人様ご家族様の要望や安全面に配慮した上で、施錠管理を行っています。	身体拘束排除における指針を整備していると共に、検討委員会及び内部研修が毎月開催されており、身体拘束の無い支援を実践している。また、高齢者虐待防止や権利擁護に関する研修も実施しており、職員全員で共通理解を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止関連法に関する研修などを通し得られた情報を、定期ミーティング等を通し、虐待0を維持できるよう情報の共有を図っています。また、法人として虐待に対し「しない・させない・見逃さない」をスローガンとして掲げています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部外部を問わず、各種研修の機会があれば希望者は学ぶことが出来るよう支援相談を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にサービス契約書や重要事項説明書の十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の相談苦情の窓口に関して、契約書や重要事項説明書等に記載しており、玄関にも掲示しています。また、苦情発生時には問題解決に向けて各担当者が誠意をもって対応しています。	家族の訪問時・電話連絡時・運営推進会議の開催を通して、意見や要望等を確認している。入居者や家族の要望などについては、会議や申し送りを通じて、適切な改善に繋げている。また、毎月「さくら通信」と「ふじ通信」を発行しており、入居者の日々の様子や活動等を家族に伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にエリア別のセンター長（管理者）会議が開催されています。またホーム内におけるミーティングを毎月1回開催し、意見や提案を現場に反映できるよう努めております。	毎月会議を開催しており、職員の意見や提案を確認している。また、管理者が業務の中で個別に職員の意見や要望等を確認している。職員の状況に応じて、柔軟に有給休暇を付与しており、働きやすい環境づくりに努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一定の期間勤めた介護従事者に対して、給与加算（キャリアアップ制度）が実施されています。また、面談を通して得られた意見をホーム内の環境整備に活かせるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は、希望者が受けられるよう随時対応を行っています。また、職員のスキルアップを目的とした段階的な育成や、働きながらトレーニングを進められるように、育成計画の作成を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	柏市グループホーム連絡会に加入しており、常に交流を行っています。また、定期的に勉強会や講習、スタッフ交流会が開催されています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行い、不安や要望、必要なケアや関わり方を傾聴し、ケアカンファレンスを通してケアの統一を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談に来所の時は、本人様の状況やご家族様の希望を聞き取り、信頼関係を築くことに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・相談時に、ご家族様と本人様の状況を確認し、ケアマネージャーや事業所各所との相談を通し、入居に限らず本当に必要としているサービスが受けられるように提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護や支援をするだけでなく、利用者の方とのコミュニケーションや共同生活を通し、利用者の方が持っている様々な能力から日々学び気付かされています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方には、ヒアリングやモニタリングシートの記入を行っていただき、定期的なケアプランの作成から、ご家族様の協力の下、支援を行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様へのお届け物などは、お礼の連絡をご家族様やご本人様から相手方へ入れられるよう支援を続けています。また、友人や近所の人の面会を喜び、次回の面会につながるように努めています。	家族との外出・外食や友人との面会等を支援しており、馴染みの人との絆を大切にしている。また、地域の商店利用や散歩等を通して、馴染みの場所との関係継続も支援している。併設の小規模多機能施設の利用者との交流機会を確保しており、同世代の馴染みの関係構築も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者の方を見つけられるよう支援・観察を行い、交流場面が増やせるよう努めています。また、テーブルの配置など気を配り孤立しないようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の利用者様やご家族様の状態を鑑み、何らかの支援を必要とされる場合は、いつでもご連絡頂きますようお伝えしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様に、ご希望や以前の暮らしをお伺いし、ご本人にとって必要な支援を検討し、職員で情報共有しています。	本人や家族の意向・身体状況・生活歴等を確認していると共に、医療機関や他のサービス事業所からの情報も得ている。また、日常生活の観察記録や医師・看護師と情報交換を通して、入居者の現状の把握に努めており、本人本位のサービスの提供に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様とのヒアリングを通し、個別の生活状況に合わせてケアプランを作成しています。また、アセスメントシートや面会時を通してご家族様からも情報提供を頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りにて、職員間で情報を共有し、ケアプランへの反映や実際のケアに活用しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートや日常生活支援シートを通し、利用者様の目標とご家族様の要望を踏まえたカンファレンスを行い、ケアプランの作成に活かしています。	本人・家族・医師・施設職員で会議を開催し、支援内容を検討して、介護計画を作成している。定期的又は必要に応じて、介護計画の目標の達成状況の確認や評価を行うと共に、要望や変化に応じて、計画内容を見直す等、現状に即した支援に繋げている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、全スタッフが確認しています。また、毎日の申し送り以外にも別途ノートを使用し、全スタッフで情報の共有と介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の付き添いや嗜好品の買い物付き添い等、多角的に幅広く対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターへの相談や、ボランティアさんのご協力を得ながら、地域の行事にも参加できるよう努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望に沿った医師による医療が受けられるよう随時相談を承っています。	希望の医療機関の受診が可能となっており、定期的に内科医及び歯科医による往診も実施している。定期的に訪問看護を行う等、適切な健康管理や医療処置等が行われていると共に、訪問薬剤師による服薬管理を行う等、適切な医療支援に繋げている。他にも、必要に応じて訪問マッサージの利用も可能となっており、利用者一人ひとりの身体状況や希望に応じた対応に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護をうけ健康管理に努めています。気になる事があれば相談し処置などの指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを病院へ提出し、概ね3日毎に面会に行き、担当医や看護師と話す機会を設け、退院計画、目標を家族と共有し連携を取っています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、ご家族様、ご本人様と十分に話し合い、その内容をホーム全体で共有し、終末期の対応が必要になった場合は、方向性や対応を検討していきます。	重度化・終末期における施設の方針を説明し、同意を得ている。重度化した場合には、家族・医師・看護師と相談し、意向に沿った支援に努めている。また、状況に応じて、医療機関や他のサービスへの切り替え等を慎重に判断しながら、対応を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルが用意されており、全スタッフに周知されています。また、全スタッフが普通救命講習を受けられるよう支援を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急マニュアルが用意されており、全スタッフに周知されています。また、毎年2回の防災訓練を消防署員協力の下実施しております。	火災報知機・自動通報機・スプリンクラー等の設備を設置すると共に、定期的に避難訓練及び消防設備点検を実施している。訓練では、消防署の立ち会い訓練・消火器訓練・通報訓練等を実施し、適切な避難方法の習得に努めている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に個人情報保護法を理解できるようテキストによる研修とテストを実施し、周知理解をしています。また、定期的に行われるミーティングを通し、日々の声かけや接遇に関する注意喚起を行い、利用者様の尊厳維持に努めています。	プライバシー保護・接遇・個人情報保護に関する研修を実施し、職員全員で共通理解を図っている。日頃の接遇については、柔らかい声かけを意識しており、入居者の尊厳に配慮した適切な支援を行っている。また、同性介助にも努めており、個々のプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で、利用者様の個々の状態に合わせて選択肢を提供するなど、自己決定がしやすいよう支援を行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々自由にお過ごし頂けるよう個々の生活のリズムに配慮した支援を中心にケアを行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の状態や以前の暮らしを考慮しながら、今希望する身だしなみが整えられるよう支援しています。美容においては定期的に訪問美容も利用し、本人様の希望にそったヘアスタイルを決めて頂いてます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の状態や希望に合わせた下ごしらえや調理、盛り付け、片づけをスタッフと共に行っています。	食事の準備・調理・片付け等を入居者と職員が共同で行っている。献立と食材は業者を活用しており、栄養のバランスに配慮した食事が提供されている。また、外食や行事食の提供・手作りおやつ・お弁当の宅配等も実施しており、食に対する楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせて食事形態を変えております。また、水分や食事の摂取量を記録しており、バランスよく摂取が続けられるよう支援を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを無理なく続けて頂くよう促し支援しています。夕食後は義歯を預かり洗浄、消毒を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録の中から個々の排泄サイクルを捉え、気持ちに配慮した声掛け、誘導、支援を行っています。また、トイレで排泄し気持ちよく過ごして頂ける様支援しております。	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けやトイレ誘導にて、排泄の自立を支援している。夜間においては、必要に応じてポータブルトイレを使用する等、安全・安心な対応に配慮している。日常的にヨーグルトの提供や運動を取り入れる等、便秘対策に取り組んでいる。必要に応じて、医師・看護師とも相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、適度な運動や体操のアクティビティをしながら便秘予防を行い、１日１回は乳製品（牛乳、ヨーグルト）を取り入れている。主治医と連携を取りながら情報の共有を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人様の要望を取り入れシャワー浴、足浴、清拭などを行い個々に応じた支援を行っております。	入居者の希望や状況に応じて、入浴機会を確保すると共に、清拭・部分浴・シャワー浴等も実施しており、清潔の保持に努めている。必要に応じて、併設の小規模多機能型施設にある特殊浴槽の利用も可能となっており、身体状況に合わせた入浴が行えるよう協力体制を構築している。入浴剤の使用や季節に応じて柚子湯や菖蒲湯を実施しており、入浴の楽しみを支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、ご希望があれば、日中のお昼寝もして頂いております。夕方からは場面転換を行い、ご利用者様の体調や気分に寄り添い、安心してお休みになられるように支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人が出来る限り自分で正しく服用できるよう支援を行っています。また、服薬ファイルでの薬剤情報周知や、分包、服薬セット時、服薬時にそれぞれ二重チェックにて管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を活かせる場面、得意分野を見極めながら、役割、居場所等、力を発揮して頂けるように支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の体調や気分に合わせて、買い物、散歩など季節を感じられるよう支援を行っています。	日頃から、散歩や買物等の外出を通して、戸外での楽しみを支援している。また、施設内の駐車場や庭等を活用して、外気浴も実施している。その他、併設の小規模多機能施設との交流や室内でのレクリエーションの充実を図っており、入居者の生活活性化に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要時には金銭を所持または使用できるようご家族様と相談し、支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持することも可能です。所持している方には使用方法を説明する等の支援を行っています。また、ホームの電話を使用する際は、職員が見守る等、必要な支援を随時行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	眩しさを感じない照明で、テレビのボリュームも場面に合わせて調整しています。また、快適な空間が保てるようフロア内に温度計、湿度計を設置し常時配慮をしています。	共有スペースにはテーブル・椅子・和室等が設置されており、入居者が自由にくつろげる室内環境が整備されている。また、写真・作品の掲示や装飾を行う等、入居者が季節感や思い出を楽しむことができるよう工夫している。他にも、エレベーターが設置されており、入居者の身体状況に配慮した造りとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間においては、自由に利用でき、出来る限り一人ひとりの思いに配慮した場所で過ごせるよう支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要なときは、なじみの物を持ち込んで頂くよう、御利用時にお願いをしています。	希望に応じて馴染みの品々を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できるよう配慮している。また、ポータブルトイレ・テレビの設置や布団を敷く事も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵が設置されており、入居者のプライバシーにも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が使いやすいように工夫された設計・配置がされています。		